

**スピーキングテストの録音、提出**

■ 使用する機器、アプリ等

i Pad、ロイロノート

■ 学習のねらい

日常的な話題について、現在形、未来形などの基本的な語句や文を用いて、自身の考え、気持ちなどを話して伝えることができる。

■ 授業の流れ

時間	学習活動
5分 導入	○本時の目標の確認
25分 展開①	○単元の復習問題に取り組む。 ・生徒が解答しづらい箇所は随時解説を入れる。 ・当該の範囲において音読練習を行う。
5分 展開②	○スピーキングテストに取り組む。 ・ロイロノートを用いて、生徒にスピーキングテスト（カードに問題を記入したもの）を送信する。 ・生徒はカードを開き、それぞれのカードに対して解答を録音する。 ・録音を終えたら、ロイロノートの提出箱に提出する。
15分 復習・ まとめ	○スピーキングテストの問題について、解答を確認する。 ・自身の発話を聞き返し、解答できなかった箇所を、各自で復習させる。 ・キーフレーズ等の音読練習を行う。 ・問題に再度取り組み、発話の質を高める。

■ ココで ICT を活用！

○授業前(教師の活用)

**ロイロノートのカードでスピーキングテストを作成**

ロイロノートを用いて、音読、短文空所補充、語整序、パーソナルクエスチョンを、カード1枚に1つずつ書き込む。 →[スピーキングテストのカード](#)

○授業中(生徒の活用)

**スピーキングテストに音声を録音**

教師から送信されたスピーキングテストに、解答を録音する。(所要時間2分程度)

**自身の発話を聞きなおし、発話の改善につなげる**

テスト後に自身の発話を聞きなおす。発話が難しかった箇所について再考する。

○授業後(教師の活用)

**生徒の音声を聞いて、採点を行う**

提出された生徒それぞれのカードの音声を再生し、採点を行う。併せて、生徒の発話に対する具体的な助言を作成する。

動画



## ■ ICT 活用のメリット

### スピーキングテスト所要時間が圧倒的に短縮され、創出された時間で生徒の発話の量を高める

対面でスピーキングテストを行う場合は、40人クラスだと2時間以上をかけて行うことになる。しかし、1人1台端末環境では、生徒が各自でタブレット端末等に音声を録音することで、たった2分程度でスピーキングテストを終えることができる。それにより生まれた時間を、事前の練習や事後の復習に活用することができ、授業の進度を気にせずに、話すことの言語活動を充実させることができる。

### 発話を聞きなおし、発話の質を高める

対面でのスピーキングテストでは、発話が記録に残らないため、生徒はテストの結果を次に生かしづらかった。しかし、1人1台端末環境では、自分で発話を聞きなおすことができるため、生徒は何ができて何ができなかったのかを確認し、振り返ることができる。うまく発話できた箇所を聞きなおすことは、生徒の自信をさらに高め、うまく発話できなかった箇所については、改めて発話内容を考えることで、発話の質の向上につなげることができる。

## ■ 本実践での工夫

### 話すことの活動が、他の領域の力も向上させることを実感できるようにした

スピーキングテストには、「話すこと」を評価する問題だけでなく、音読問題も入れており、「話すこと」へのハードルを下げるように工夫した。また、「書くこと」を評価するような語整序や空所補充を出題することにより、話す活動が、他の領域の力の向上につながることを実感させるようにした。

### 創出された時間で、話すことの言語活動を充実させる

これまではスピーキングテストを行っても、事後指導に時間を割くことが難しかったが、今回はテスト後に、生徒が振り返りを行う時間を十分に確保することができた。テスト時は、きちんと発話できなくても、再度のチャレンジでは自信を持って発話できるようになった生徒が増えた。

## ■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

スピーキングテストの時間を圧倒的に短縮することで、生徒のアウトプットの質と量を大幅に高めることができた。これまでは、授業の進度を保つために、学んだことを活用させる場面や、復習の場면을十分に確保できないことがあった。しかし、本単元では捻出できた時間を活用して、生徒にアウトプットさせる場面を増やし、練習を通して、自身の強みと弱みに気付く機会や、他のクラスメイトの表現から学ぶ機会を作った。テスト後の復習の時間に、自信を持って大きな声で話そうとする生徒の姿を見て、ICT活用の効果を実感した。

今回は実施しなかったが、自身の発話を、聞き取って、書き取る活動を行えば、生徒は何を言うことができ、何を言うことができなかったのか、そしてどのような表現をするべきであったのかを、効果的に振り返り、質の向上につなげることができると考えている。

本実践はスピーキングテストであったが、他の領域の指導においても、ロイロノートのカードを使用して効率的に小テスト等を行うことで、創出された時間を言語活動の充実にかつなげることができるであろう。